

Science journalism: The Arab boom

盛り上がるアラブ世界の科学ジャーナリズム

Nadia El-Awady Nature/Vol.459(1057)/25 June 2009

アラブ諸国で研究活動が活発化するに伴い、メディアも科学報道を増やしている。しかし、この地域のジャーナリズムにはなお改善の余地が多い。

10年ほど前にエジプトの IslamOnline.net で科学を担当し始めたころ、「科学ジャーナリズム」をインターネット検索して、そのような職業が実在するのかどうか調べたことがある。少なくとも私は、それまでアラブ世界でこの複合語を耳にしたこ

とはなかった。

しかし時代は変わった。2006年に私が発足に関わったアラブ科学ジャーナリスト協会 (ASJA) は、2009年5月現在で、会員数179名を数えるまでになった。当協会は、米国科学ライター協会と共同で、

2011年の第7回世界科学ジャーナリスト会議をカイロに招致しようとしている（第6回会議は2009年6月30日からロンドンで開催された）。アラブ世界では科学ジャーナリズムが力を増しつつある。しかしなお、質が量に伴って向上するよう努力

する余地が残されている。

欧米のメディアでは科学スタッフがリストラに遭っているが、ASJA 会員を対象として 2009 年 1 月に行われた調査によれば、過去 5 年間にわたってアラブの科学ジャーナリストのフルタイム雇用は比較的安定しており、フリーランスの仕事はさらに多いとされている。例えば 1950 年代からウィークリーの科学ページを編集しているエジプトの日刊紙アルアハラムは、フルタイムの科学ジャーナリストを 20 名雇用している。発行部数が同程度の米紙ワシントンポストは 8 名だ。アラブの最大級の報道機関で知名度も高い衛星テレビ局アルジャジーラはフルタイムの科学記者をもたないものの、エジプトの科学研究チャンネル、アルマナラには 40 名のフルタイムスタッフが在る。こうした明るい状況は、科学に対するアラブ市民の関心の高さとともに、アラブ圏での科学研究や会議が増えていることとも関係している。

自地域の研究活動が活発になるにつれ、アラブの科学関連施設は、科学とそのコミュニケーションを促進する目的もあって、メディア活動の支援に対して関心を高めている。例えばアラブ科学技術基金（アラブ首長国連合、シャルジャ）は、ASJA 活動の多くに資金を提供している。また、エジプトの科学研究技術アカデミーは、地元の科学誌アルイルムと科学チャンネルのアルマナラに資金を供与している。このような資金提供とメディア重視の認識は歓迎すべきものだが、注意も必要だ。ジャーナリストは、資金を提供してくれる施設でも批判的に書くことができなければならない。

イスラム文化では科学者と医者に深い敬意が払われており、それゆえに、科学ジャーナリストは、調べようとする相手に対して気後れしないよう注意しなければならない。科学ライターの中には現役の科学者でもある。ASJA 会員の 5 分の 1 は大学に籍を置き、研究活動を行っていたり、医師や獣医として活躍したりしている。このことが、ジャーナリストとしての仕事で



批判的な見方を維持する際の障害となる場合もある。

さまざまな問題と課題

このように科学とメディアの結びつきは強いが、アラブの研究機関はなおジャーナリストに対してかなり閉鎖的だ。カイロのデスクにいる私にとっては、通りの真向かいにあるエジプト国立研究所で起こっていることよりも、地球の反対側にある米国の大学で起こっていることの方が情報を得やすい。アラブの科学系研究機関や大学には報道担当者が不足している。プレスリリースがジャーナリストに配信されることはほとんどなく、ウェブサイトのメンテナンスも不十分な場合が多い。

アラブ圏の科学ジャーナリズムには、もっと一般的な問題もある。多くのメディアの土台が政府に押さえられており、それゆえに、政府広報に批判的でない報道をするジャーナリストが多いのだ。その結果が現れた一例が、H1N1 豚インフルエンザの発生に関する最近のエジプトの報道だ。豚からウイルスが検出されたわけではないのに、大統領令によってエジプトの豚は全頭殺処分された。エジプトで最初の感染者が発生する前に、感染を封じ込めるため、エジプトの保健相 Hatem El-Gabaly は、礼拝や大学入試をモスクや室内ではなく屋外で行うよう求めた。エジプト各紙は、外科用の糸やひげそり用のブラシの原材料になる豚の腸と体毛の輸

入を農業相が全面的に禁止したと報じている。こうした政策に対して無批判なエジプトメディアの報道は、一般市民の間に無用のパニックを引き起こした。

別の要因もこの問題に拍車をかけている。英語のスキル不足が、アラブ圏の科学情報源の欠如とあいまって、入手可能な情報や国際イベントへの参加を制限しているのだ。アラブ圏のジャーナリストや科学者の中には、インターネットを、それ自体単独で信頼できる情報源ととらえている人々さえいる。

アラブの科学ジャーナリストはこうした問題に立ち向かわなければならない。資金源を多様化し、資金源との距離を保つことの重要性を肝に銘じる必要がある。英語スキルの向上も必要だし、アラビア語でのトレーニングの機会も増やさなければならない。ジャーナリストと科学者には、どの情報源が信用できるのかを教育する必要もある。

興隆してきたアラブの科学ジャーナリズムを育成し、持続させなければならない。もしもその弱点をそのまま放置するようなことがあれば、現在の興隆は転落への序章となるかもしれない。(小林盛方 訳) ■

Nadia El-Awady は、カイロを拠点とするフリーランスの科学ジャーナリスト。アラブ科学ジャーナリスト協会の設立当初からの会員で会長経験者であり、世界科学ジャーナリスト連盟の理事でもある。

Nature 459 1061 ページ、およびウェブページ <http://tinyurl.com/sciencejournalism> を参照。